

委員長 河野 直子

【ロータリー米山記念奨学会とは】

将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

優秀とは「(1) 学業」に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、「(2) 異文化理解 (3) コミュニケーション能力」への意欲や能力に優れている点が含まれます。

ロータリー米山奨学生は、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。年間の奨学生採用数は700人、事業費は13.6億円（2012-13年度決算）と、国内では民間最大の国際奨学事業となっています。

これまでに支援してきた奨学生数は、累計で17,545人（2013年4月現在）。その出身国は、世界121の国と地域に及びます

【ロータリー米山記念奨学会の歴史】

日本最初のロータリークラブ創立に貢献した実業家「米山梅吉」の功績を記念して発足しました。

1952年に東京ロータリークラブで構想がたてられたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年文部省の許可を得て財団法人ロータリー米山記念奨学会となり、さらに2012年公益財団法人となりました。

【世話クラブとカウンセラー】

米山奨学金には、奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独

自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があり、1つのクラブが1人の奨学生の「世話クラブ」となります。米山奨学生は世話クラブの例会に月に一度出席し、ロータリー会員と積極的に交流して国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学びます。

【米山奨学事業の財政】

米山奨学事業はロータリアンの寄付金によって成り立っている事業です。これまでのところ下記のように寄付金額が推移しています。

(1) 寄付金額の推移：1996年度から2012年度までをみると、1997年度までは普通寄付金と特別寄付金の総額は20億円を超えていた。1998年度以降徐々に低下し、2004年度には15億円を切り、2011年度は12億9千万円にまで低下した。しかし2012年度は13億3千万円と上昇。2013年度は2014年4月までの寄付金額が11億9千万円で、前年同期比3,980万円増。

(2) 収支バランス：1996年度から2004年度までは奨学生採用数が1,000人で、その間収支はマイナスになり特別積立財産取崩を行っていた。しかし2005年度は奨学生採用数を800人、さらに2012年度は700人と減少させたため、収支のバランスは回復に転じている。

(3) 寄付金低下の原因：全国個人平均額は1万5千円前後で推移しており、一番の原因は会員の減少にあると思われる。

【第2730地区の寄付金の状況】

2009年度2,447万円、個人平均額1万286円で、今までの最高額を示しました。2010年度は2,155万円、個人平均額9,205円と低下しましたが、その後上昇に転じ、2012年度は2,276万円、個人平均額9,726円でした。

【2014～2015年度2730地区目標】

① 寄付目標額 15,000円（全国平均額）/年 クラブ目標も同額

② 普通寄付金（各クラブの定期寄付） 5,000円/年 クラブ目標も同額

ロータリー米山記念奨学会は、内閣府より「公益財団法人」の認定を受けているため、所得税（個人）、法人税（法人）の税制優遇が受けられます。

【おわりに】

世話クラブカウンセラー制度については E クラブの特性上難しいところですが、地区目標でもある「個人平均額を全国平均値と同等にする」

の達成に向け、ご理解とご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。